

# 軍医森鷗外の ドイツ留学

武智 秀夫 著

2014年7月刊行

▶ A5判・352頁／定価：本体3,000円（税別） ISBN978-4-7842-1754-0

文豪・森鷗外が青年時代にドイツへ留学したことはよく知られている。その間、さまざまな文化・文献に接し、語学力を磨いた。留学がのちの大文豪になる大きな糧となったのは数多くの研究が明らかにするとおりである。しかしドイツ留学の目的は文学でなく、陸軍医事制度調査と衛生学研修であった。本書は医学史の立場から、軍医としてドイツに渡った青年森鷗外の留学の実態を明らかにする。




## ◎内容目次◎

- 第1章 津和野**  
藩医の家系／鷗外の両親／父静男のオランダ医学修業／静男の人となり
- 第2章 医学を学ぶ**  
上京・入学／医学部のカリキュラム／鷗外の外科学教科書への書き込み／卒業試験、卒業
- 第3章 その時代の衛生学**  
衛生学と衛生行政／わが国の近代的衛生行政／明治十年ごろまでに出版された衛生学の書物／『國政醫論』と『衛生汎論』／当時の衛生学の概要
- 第4章 陸軍軍医部に入る**  
留学のモチベーション／陸軍軍医副／『北游日乗』、『後北游日乗』／齋藤勝壽について
- 第5章 『醫政全書稿本』十二巻**  
プラーゲルの『陸軍医事制度書』／『病室著色の事』とプラーゲルの著書／わが国の軍医制度とプラーゲルの著書／パークスの『実用的衛生学マニュアル』とロートの『陸軍衛生学全書』
- 第6章 留学が決まるまで**  
留学の原則的要件／明治初期の文部省留学生／鷗外の橋本綱常訪問／留学の決定／留学の目的／留学の受け入れ先
- 第7章 出発からベルリンまで**  
『航西日記』／出発から香港まで／香港からヨーロッパまで／初めてのベルリン、『獨逸日記』
- 第8章 ライプツヒ**  
フランツ・ホフマン／衛生学の研修／ヴィルヘルム・ロート／脚気菌発見への鷗外の意見／「日本兵食論大意」／脚気の認識／文学書のことなど
- 第9章 ライプツヒ時代の軍事研修**  
初めてのドレスデン／負傷兵運搬演習／秋期演習参加に至るまで／秋期演習
- 第10章 ドレスデン**  
冬期軍医講習会受講の手続き／軍医講習会の内容と受容／ドレスデンでの生活／王宮への参内、ファブリス伯の夜会／プロイセン軍医会／ドイツ文化との接触
- 第11章 ミュンヘン**  
論文「ビールの利尿作用」／ミュンヘンでの生活／ルードヴィッヒ二世の謎の死／ナウマンとの論争
- 第12章 ベルリン**  
当時のドイツ帝国とベルリン／ベルリンでの論文上梓／国際赤十字会議／ベルリンでの交流／隊務の様子／フリードリッヒ三世の悲劇
- 第13章 帰国の途へ**  
アムステルダム、ロンドン／四つの漢詩／パリ／マルセイユからコロンボまで／コロンボから横浜まで
- 第14章 エリス**  
エリスがわかるまで／エリスの旅費／ドイツ三部作  
初出一覧／あとがき／参考文献／索引（人名・事項）

たけち・ひでお…1930年、愛媛県松山市生。1950年、旧制松山高等学校理科卒業。1954年、岡山醫科大學卒業。1959年、岡山大学大学院医学研究科（外科系整形外科学）修了、医学博士。1965～66年西独ハイデルベルク大学整形外科留学。元岡山大学助教授（医学部整形外科学）。労働福祉事業団吉備高原医療リハビリテーション・センター名誉院長。日本医史学会会員、森鷗外記念会理事。（主な著書）『リハビリテーション医療入門』（医学書院）、『義肢装具とリハビリテーションの思想』（創造出版）、『ビルロートの生涯』（考古堂書店）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	軍医森鷗外のドイツ留学		本体3,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1754-0
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所		〒			
送本方法		<input type="checkbox"/> 書店経由（このらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）			
				本書HPのQRコード	書店番線印

## ※ベルツの生涯 近代医学導入の父

安井広著

日本の近代医学発展の基礎を築いた一人であるベルツの生涯をその業績と足跡からたどる著者ライフワークの遺著。【内容】明治初期の東京医学校/来日以前の経歴と日本における生活/内科学著書から/栄養論/温泉医学/中央衛生会/ドイツ東洋文化研究協会/人類学/在日中の日記/ドイツにおける晩年の日記/年譜・業績  
▶A5判・450頁/本体12,000円(税別) ISBN4-7842-0876-3

## 医学序説

H.E.シゲリスト著/高山坦三訳

1891年、パリ生まれのスイスの医学史家で、ライプチヒ大、ジョンズ・ホプキンス大で教鞭をとったシゲリストは、医学史が医学の社会的な問題の解決法の一つとなることを信じ、その研究に一生を捧げた。本書は、歴史の手法を用いて医学の基礎概念を紹介し、医学および医師の職責の本質を示した医学の入門書である。  
▶B6判・418頁/本体3,800円(税別) ISBN4-7842-0033-9

## 浪速の町医師 上田秋成

濱光治著

江戸後期、和漢の文献に関する広い知識の上に、深い知性と鋭敏な感性をもって特異な文学を打ち立てた秋成、その意外と知られていない医師としての側面に光をあてる。医者としての働きぶりや、その師都賀庭鐘の存在、自らの著書『胆大小心録』にもみられる「医は意」をモットーとした彼の医の心などを探る異色作。  
▶A6判・178頁/本体1,845円(税別) ISBN4-7842-0574-8

## 医療福祉の祖 長与専齋

外山幹夫著

長崎・大坂で医学を学び、長崎医学校の初代校長となった長与専齋。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいえるべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、その功績を家族・交友関係など幅広い視点から明かす。  
▶A6判・200頁/本体2,000円(税別) ISBN4-7842-1107-1

## 緒方洪庵の蘭学

石田純郎編著

『解体新書』以後の洪庵に代表される日本の蘭医学…。蘭学者および彼らが学んだ原典とその著者たちのプロソグラフィ（集団履歴調査法）的研究を通して日本医学の質を明かす。【内容】緒方洪庵と適塾生/『扶氏経験遺訓』とその原典/ボンペと緒方洪庵のコレラ治療法/ハイステルとユールホールン/種痘の普及 他  
▶A5判・366頁/本体4,800円(税別) ISBN4-7842-0751-1

## 医学書誌論考

大島蘭三郎著

昭和の時代を医学者、医史学者として学界をリードして来た著者による、近世・近代医学の古典・名著の書誌学的研究6篇を収める。論じる文献は『瘍医新書』『南蛮流秘伝書』『金瘡仕掛』『栗崎流金瘡口伝書』『鶴斎遺稿歌之一』『耆耄独語玉味噌』『鶴斎遺稿』『遠西医範』『医範提綱』『外科必読』  
▶A5判・212頁/本体4,800円(税別) ISBN4-7842-0474-1

## 翻訳文学の視界 近現代日本文化の変容と翻訳

井上健編

翻訳文学とは何であるのか。明治維新後の日本にとって翻訳は、西洋文明に学び、近代国家の骨格を整えるために必要な、国家的事業であった。言語が自国文化と深く関わる以上、翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。  
▶A5判・300頁/本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1600-0

## 夏目漱石における東と西

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書4  
明治の文豪、夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。  
【内容】小説美学としての〈非人情〉/『吾輩は猫である』におけるメランコリーと神経衰弱/「甲羅ノハハタル」暗示 他  
▶A5判・208頁/本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1335-1

## 京都療病院お雇い医師シヨイベ 滞日書簡から

森本武利編著/酒井謙一訳

治療・教育・研究にあたって優れた成果をあげたドイツ人のお雇い医師シヨイベ(1877-81)。滞日中に母へ送った書簡のコピーを、シヨイベの遺族から得た編著者が、その翻訳を通して、シヨイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。  
▶A5判・346頁/本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1581-2

## 箕作阮甫の研究

蘭学資料研究会編

医学・地理・歴史・兵学・地質・物理・天文・法律・語学と多方面にわたり先見性に富んだ数々の業績を残した箕作阮甫。各分野の専門家が今新たな視点でその再評価を展開する。【執筆】児玉幸多/緒方富雄/大久保利謙/小沢栄一/菊池俊彦/石山洋/呉直彦/富士川英郎/土屋番雄/菱本丈夫/呉茂一/中山沃/小山健三/江原滋  
▶A5判・700頁/本体13,000円(税別) ISBN4-7842-0035-5

## 精神病医 齋藤茂吉の生涯

岡田靖雄著

精神病医の著者が描く、精神病医齋藤茂吉の評伝。茂吉について今まで語られることのなかった、精神病医茂吉と歌人茂吉との相克が描かれる。【内容】医科大学入学まで/医科大学の時代/巢鴨病院の時代/長崎医学専門学校時代/留学/病院火災から再建へ/うちのめされて、いきる/疎開/のこされた日々/齋藤茂吉という人  
▶A6判・354頁/本体3,000円(税別) ISBN4-7842-1056-3

## 緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺

中山沃著

洪庵の嫡子で、ボンペ、ボードインらに学んだ惟準は、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設、大阪での医療基盤確立などに貢献。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、著者が博搜した資料とともにその生涯と交遊を詳述。幕末・明治初期の医学界をもものがたる基本図書。  
▶A5判・1018頁/本体15,000円(税別) ISBN978-4-7842-1563-8

## 蘭学の背景

石田純郎編著

1609年平戸のオランダ商館開設以来、オランダを通して流入、江戸中期以降興隆した蘭学、殊に蘭医学のルーツを、遠影ともいえるべきライデン大学、大きな影響を与えたシーボルトの医学的背景、近代日本に直接影を落としたウトレヒト陸軍軍医学校など、直接現地に足をのびして探り、蘭学史に新たな光をあてる。  
▶A5判・360頁/本体3,800円(税別) ISBN4-7842-0512-8

## オランダにおける蘭学医書の形成

石田純郎著

『解体新書』の原著者や蘭訳者の履歴や職歴、著書を具体的に検討することにより、日本の受容した蘭学の性格を明らかにする。他の代表的な受容蘭学医書についても精査することにより、受容した蘭学のヨーロッパにおける学統を明かし、その背景となった1800年頃までヨーロッパに存在した古いタイプの職人としての外科医の様子を描出。  
▶A5判・336頁/本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1338-2

## 言語のあいだを読む 日・英・韓の比較文学

大澤吉博著

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。  
▶A5判・550頁/本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1524-9

## 幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

幸田露伴は明治から昭和を通じ、小説・劇作・随筆など多彩な才能を発揮しながらも、それらが難解であるが故に全面的な研究がなされてこなかった。文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチした共同研究成果13篇。  
▶A5判・318頁/本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1444-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。